



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2015 VOL.02

タフなレースで貴重な 4ポイントを獲得

開幕からポイントを獲得できたのはほっとしています。

Race Report

Round.1 SUZUKA CIRCUIT 4/19 Final

決勝 2015年4月19日 鈴鹿サーキット



**TAKE
FREE
無料**



INGING NEWS PAPER VOL.02 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社サイバーネット、西日本事業部
〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル5F

NEXT
RACE

SUPER FORMULA OKAYAMA INTERNATIONAL 5/23-5/24

Support by cyber net
株式会社 サイバーネット

石浦、開幕戦で4ポイントを獲得 表彰台に狙いを定める。



Race Report 決勝 2015年4月19日 鈴鹿サーキット
Round.1 SUZUKA CIRCUIT 4/19 Final
 天候:曇り | コース状況:ドライ 決勝 [43 Laps: 249.701 km]

シーズンオフの調子の良さを取り戻したい

日差しが暖かく感じられた予選日と変わり、決勝日は明け方からの雨で幕を開けた。

朝9時5分からスタートしたフリー走行は、気温15℃、路面温度18℃、レースウィークで初めてのウェットコンディションでのセッションとなり、P.M.U./CERUMO-INGINGの2台はそれぞれウェットコンディションアサインしてマシンの感触を確かめたが、石浦が13番手タイム、国本が17番手タイムと、いまひとつ振るわない結果となった。なんとかシーズンオフの調子の良さを取り戻したいチームは、再び決勝に向けてマシンセッティングを見直していくこととなる。ただ、天候は回復傾向にあり、SUZUKA 2&4 RACEに開催されている今大会は、SUPER FORMULAの決勝レースが始まるまでに2輪とF3の決勝レースが入っていた。14時15分、レース前のウォームアップ走行が始まるころには路面

は完全に乾き、気温は18℃、路面温度も24℃と上昇。予選時に近いコンディションになったことで、このウォームアップ走行では石浦が3番手のタイムを記録し、決勝レースに弾みをつけた。15時4分、決勝レーススタート。4番グリッドの石浦は絶妙なホールショットを決めてポジションアップに成功した。しかし、スタートでエンジンストールし、石浦の後ろまで下がっていた山本隆貴が猛進。2台ともオーバーテイクシステムを使いあつて速いバトルを見せ、石浦は2周目の1コーナーまで懸命に抑えていたが、2コーナーの先でわずかに譲り負け4位にポジションを戻すことに。その後、レース序盤は上位3台にいらりり31秒離されて、石浦は冷静に対応し、その差を0.5秒以内に縮めたいま周囲を重んじていった。

歯車がかみ合わず速さを見せられない週末となったチーム、挽回を目指す。

43周で争われるレースは、順位がこう書かれたまま折り返し地点を迎える。石浦はピットインのタイミングを、後ろを走るカーティケヤンが入った空周とチームに伝えていた。次の間ピットインを意図した石浦は、このインフラップで猛アッシュを認めたが、前を走る周回遅れに阻まれたほどのラップタイムを刻むのにピットに入ることに。チームは給油・タイヤ交換合わせて13秒と素早い作業で石浦をコースに戻したが、アウトラップの冷えたタイヤで背後に迫ってきたカーティケヤンを抑えきれず、先行を許してしま。さらに、石浦の翌周にピットに入ったジョア・パオ・デ・オリベイラ、タイヤ無交換を敢行したチームズ・ロッターの2台が石浦の前に入り、歯車がかみ合わず速さを見せられない週末となったチーム、次戦、スズカに国内最速マシンを駆る山本隆貴と石浦の挽回を誓う。

た。しかし、タイヤ交換をしないロッターと、それを抜きあぐねているオリベイラが鋭い合戦を始め、石浦にはまとめて2台をかすチャンスを逃すことになる。この3台の争いはレース最終ラップまで続いたが、41周目のサインで、オリベイラとロッターが接触。ロッターはコースを外れ、オリベイラも挙動を乱したことで石浦は一気に近づく。コトローラインを通過した時にはほとんど並ぶかばかりに近づいたが、7番手そのままファイナルラップに入った。このままの順位でチェッカーを受けると、ロッターの2台が石浦の前に入り、歯車がかみ合わず速さを見せられない週末となったチーム、次戦、スズカに国内最速マシンを駆る山本隆貴と石浦の挽回を誓う。



SEASON KICKED OFF

Driver Number 38
石浦 宏明 H.ISHIURA

スタートはそんなに悪くなく、1台をパスすることができました。後ろに山本選手がついてきたのですが、ヘアピンを立ち上がったあたりでエンジンパワーに差を感じました。それで、ストレートに戻ってきたときにオーバーテイクシステムを使ったのですが、向こうも使ってきたことで強引合いになってしまいました。その後は、ガスを残した状態だとなかなかペースが上がらず、前に追いつくというよりも後ろを抑えている状態がレースが進んでいきました。ピットインに関しては、後ろのタイヤ交換を待つことでピットに入るタイミングをずらすことで、周回遅れに阻まれてしまい、上手いときを逃がした。全体的にペースがあまり良くない中で頑張って走っていたのですが、流れが上手くありませんでした。シーズンオフのテストでは調子が良かったように感じていたのですが、実際レースを走ってみて、あまり速くなかったの、次に向けてクルマのセットアップを考え直さないとはいけません。次戦までにペースアップしていけるよう頑張ります。

Driver Number 39
国本 雄資 Y.Kunimoto

朝、フリー走行のウェットでの感触はあまり良くなかったのですが、路面が乾いてきて、レース直前のウォームアップ走行ではそんなに悪くない手ごたえを感じました。スタート、ギアを速に合わせたのですがなぜかほじかれて、ニュートラルになってしまいました。一時のことで、何が起きたのかよくわからなかった。最後周りに上がったのは地味に少しとれましたが、前のマシンに引掛かる形も出ていって、逆にタイヤを削りすぎてペースが上がらなくなってしまいました。その影響もあって、あの間にピットインをしました。そのあと、前後でクルマがない状態でのペースやマシンのパフォーマンスは悪くなかったと思います。今シーズン1レースだったとしても、やらなければいけないこと、改善しなければいけないことが増えてきました。次戦の岡山ではもう少しいいレースができたいと思います。僕もチームもミスなく、いい週末が送れるように準備をしたいです。

Team director
立川 祐路 Y.TACHIKAWA

まず38号車に関してですが、きつくとレースはできたものの、ペースがうまくつかない展開になりました。そんな中でなんと5位に入り、表彰台からポイントを獲得できたのは素晴らしいです。しかし、我々が目指しているのはこのレースだけではなく、セッターが後め、もう少しクルマがアツクパフォーマンスを上げてほしい。シーズンオフの調子の良さを出せなかったの、次戦に向け、様々なものを見直す必要があります。39号車に関しては、スタートでのエンジンストールが悔やまれます。さらにピットに待たされたミスもあり、上手くないレースでした。途中のペースアップで大きく追い上げもありましたが、やはり2台をもう少しペースが欲しいところ。次戦の岡山は、ドライバーも将軍としてコースです。しっかりと優勝争いできる位置に居られるよう、見直していきたいと思っています。この岡山は久々のレースになるので、どのチームにもチャンスがあると思います。そのチャンスをしっかりとつかめるよう頑張ります。